

展覧会 オリンピックの美 — 東京、札幌、長野 —

日本のオリンピックをデザインしたクリエイターたち

開催趣旨

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

オリンピックは人類史上もっとも重要なスポーツの祭典であると同時に、オリンピック憲章にもあるように、文化、教育、スポーツを一体にした生き方の創造を求めるものでもあります。

こうした理念のもと、オリンピック競技の開催に際し、多くの芸術作品が生まれてきました。

本展覧会ではこれまで日本で開催された東京、札幌、長野オリンピックにおいて、オリンピズムが視覚芸術にいかにか表現されてきたかを紹介するものです。

このたびご紹介するのはポスター、プログラムをデザインしたクリエイターたちです。栗谷川健一（東京、札幌）、亀倉雄策（東京、札幌）、永井一正（札幌）、青葉益輝（長野）、浅葉克己（長野）、絹谷幸二（長野）、原研哉（長野）の作品展示をつうじて、クリエイターたちがどのようにオリンピックの表現に取り組んで来たかを振り返ります。

また特別出品として1920年アントワープ・オリンピック大会に日本最初の水泳代表選手として出場した内田正練（うちだまさよし）が授与されたディプロムを展示します。

東京オリンピックについては、表彰式で着用された振袖と帯を展示いたします。

来るべき東京オリンピックに向けてオリンピズムとは何かを再考する一助となれば幸いです。

なお本展覧会は、学習院女子大学アートマネジメント国際セミナーの関連企画として開催されるものです。

オリンピック憲章（抜粋）

根本原則

オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツを文化と教育と融合させることで、オリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。

Olympic Charter 2011年版 国際オリンピック委員会

概要

展覧会タイトル： オリンピックの美 ― 東京、札幌、長野 ―

日本のオリンピックをデザインしたクリエイターたち

会期：2014年11月17日（月）～12月14日（日）

日曜祝日休館ただし11月30日（日）、12月14日（日）は開館

開館時間：午前9時～午後4時半

会場：学習院女子大学文化交流ギャラリー、就職情報室（2号館1階）

入場料：無料

主催：学習院女子大学

協力：秩父宮記念スポーツ博物館

日本デザインセンター

浅葉克己デザイン室

後援：特定非営利活動法人 日本オリンピック・アカデミー（JOA）

特定非営利活動法人 日本スポーツ芸術協会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）

監修：荒井啓子（学習院女子大学教授、日本オリンピック・アカデミー専務理事）

キュレーター：清水敏男（学習院女子大学教授）

企画制作：学習院女子大学大学院企画立案（文化事業）受講生、博物館実習受講生

*本企画は学習院女子大学アートマネジメント国際セミナー関連展覧会です。

教育普及プログラム

担当大学院生によるギャラリートーク

12月2日（火）、3日（水）、9日（火）、10日（水）午後3時～3時半

出品クリエイター

栗谷川健一、永井一正、青葉益輝、浅葉克己、絹谷幸二、原研哉

特別出品

- ・1920年アントワープ・オリンピック大会内田正練（日本最初の水泳代表選手）ディプロム
- ・1964年東京オリンピック表彰式振袖、帯

お問い合わせ先：学習院女子大学大学院・学芸員課程事務室 03-3203-7437



1964年東京オリンピック 表彰式で着用した振袖
秩父宮記念スポーツ博物館蔵